

### 論考

朝鮮半島における秩序変革の今後  
—政治の時代から経済の時代へ—

三村光弘

### 研究ノート

副詞的連用語尾につく「만」について  
—「V1 (어・아) +V2」型動詞を題材に—

朴恩珠

光州事件と民主化運動  
—「民衆」概念を通じた当事者と非当事者の接近—

佐藤雪絵

### 2018年度国際高麗学会日本支部学術大会テーマに寄せて

第22回国際高麗学会日本支部学術大会報告

高正子

### キルチャビ（道標）

朝鮮民主主義人民共和国における切手の発行と付与された役割

任正熾

映画『アリラン峠を越えていく—在日コリアン音楽の今』を鑑賞して

味村考祐

「アリラン峠を越えていく—在日コリアン音楽の今」を鑑賞して

光川眞翔

石綿被害者と在日同胞労働者

—大阪府泉南市—

姜健栄

### 書評

鄭栄鎮『在日朝鮮人アイデンティティの変容と揺らぎ—「民族」の想像／創造』

伊地知紀子

梁聖宗・金良淑・伊地知紀子（編著）『済州島を知るための55章』

鄭栄鎮

張慶姫著『北朝鮮の博物館』池貞姫・村上和弘・松永悦枝訳

高正子

南玉瓊『第2のコリアン・ディアスポラ—中国朝鮮族の国内移動とコミュニティ形成』

今里 基

論考

朝鮮半島における秩序変革の今後  
 —政治の時代から経済の時代へ— ..... 三村光弘 1

研究ノート

副詞的連用語尾につく「만」について  
 —「V1 (어・아) +V2」型動詞を題材に— ..... 朴恩珠 7

光州事件と民主化運動  
 —「民衆」概念を通じた当事者と非当事者の接近— ..... 佐藤雪絵 17

2018年度国際高麗学会日本支部学術大会テーマに寄せて

第22回国際高麗学会日本支部学術大会報告 ..... 高正子 31

キルチャビ

朝鮮民主主義人民共和国における切手の発行と付与された役割 ..... 任正嫻 36

映画『アリラン峠を越えていく—在日コリアン音楽の今』を鑑賞して ..... 味村考祐 44

「アリラン峠を越えていく—在日コリアン音楽の今」を鑑賞して ..... 光川真翔 47

石綿被害者と在日同胞労働者  
 —大阪府泉南市— ..... 姜健栄 49

書評

鄭榮鎮『在日朝鮮人アイデンティティの変容と揺らぎ—「民族」の想像／創造』 ..... 伊地知紀子 54

梁聖宗・金良淑・伊地知紀子（編著）『済州島を知るための55章』 ..... 鄭榮鎮 58

張慶姫著『北朝鮮の博物館』池貞姫・村上和弘・松永悦枝訳 ..... 高正子 61

南玉瓊『第2のコリアン・ディアスポラ—中国朝鮮族の国内移動とコミュニティ形成』  
 ..... 今里基 63

学会報告

2018年度学会活動 ..... 67

投稿規定・執筆規定 ..... 71

編集後記 ..... 74

# 国際高麗学会日本支部

## 2018 年度

### 学会活動

## ◎国際高麗学会日本支部 第 22 回 学術大会

日 時：2018 年 6 月 10 日 (日)

場 所：大阪教育大学 天王寺キャンパス

【午前の部】10：00～11：15 中央館

自由論題① 中央館 212 司会：総谷智雄氏

1. 10：00 朴恩珠氏 (大阪女学院大学)

『副詞的連用語尾につく「만」について — 「V1 (어・아) +V2」型動詞を題材に一』

2. 10：25 廣瀬陽一氏 (大阪府立大学)

『中野重治の石川啄木論—「国民感情」との対決』

3. 10：50 任正嫻氏 (朝鮮大学校)

『新民謡「朝鮮八景歌」とそれを取り巻く人々』

自由論題② 中央館 213 司会：鄭榮鎮氏

1. 10：00 全ウンフィ氏 (大阪市立大学)

『住民 2 世の土地利用にみる在日の周縁的集住地域の存続過程—京都府 A 地区を事例に一』

2. 10：25 高橋優子氏 (九州大学大学院)

『在日コリアン被爆者たちの「南北統一」』

3. 10：50 姜健榮氏 (大同クリニック)

『石綿被害者の在日同胞労働者—大阪府泉南市—』

【午後の部】13：30～17：00 西館 1 階ホール

『朝鮮半島の民族芸能と在日コリアン』

第一部 民俗芸能の実演と話

映画『アリラン峠を越えていく—在日コリアンの音楽の今』(ダイジェスト版) 上映

会長挨拶と趣旨説明

宋明花氏 (西道民謡、ピョンチャン) 鼓手：趙倫子氏

安留奈氏 (南道民謡、伽耶琴ピョンチャン) 鼓手：李眞秀氏

安聖民氏 (パンソリ) 鼓手：趙倫子氏

## 第二部 総合討論

司 会 高正子氏（神戸大学）

コメント 寺田吉孝氏（国立民族学博物館 学術資源研究開発センター 教授）

姜信子氏（作家、表現者）

【懇親会】 17：30～ 1階食堂

## ◎特別講演会

日 時：2018年11月16日（金） 開演 18：00 / 開場 17：30

会 場：立命館大学いばらきキャンパス B棟4階 研究室1

報 告：三村光弘氏（環日本海経済研究所 調査研究部主任研究員）

「朝鮮半島における秩序変革の今後－政治の時代から経済の時代へ－」

コメンテータ：文京洙氏（立命館大学 教授）

## ◎人文社会研究部会

### 第89 人文社会研究部会

日 時：2018年3月24日（土） 15：00～

会 場：立命館大学梅田キャンパス演習室2

[報告] 崔正勲氏（立命館大学国際地域研究所客員研究員、国際関係学博士）

「トランプ政権の北朝鮮政策について」

### 第90 回人文社会研究部会

日 時：2018年5月13日（日） 15：00～

会 場：立命館大学梅田キャンパス演習室2

報 告：ドキュメンタリー映画「アラン峠を越えてゆく～在日コリアン音楽の今」上映会

解 説：高正子氏（国際高麗学会 日本支部、神戸大学講師）

### 第91 回人文社会研究部会

日 時：2018年7月29日（日） 15：00～

会 場：OIC（立命館茨城キャンパス）B棟4階研究会室1

報 告：孫春日氏（延辺大学校・教授）

「朝鮮人から朝鮮族へ－中国朝鮮族の社会身分変化過程とそのアイデンティティ」

### 第93 回人文社会研究部会

日 時：2019年2月23日（土） 14：00～

会 場：大阪教育大学大天王寺キャンパス 中央館4階415室

報 告：合評会

対象本：鄭栄鎮『在日朝鮮人アイデンティティの変容と揺らぎ－「民族」の想像/創造』

法律文化社、2018年。

自著解説：鄭榮鎮氏（大阪市立大学）

コメント：李洪章氏（神戸学院大学）

全ウンフィ氏（大阪市立大学）

## ◎科学技術研究部会

### 第66回科学技術研究部会

日時：2018年3月24日土曜日 16:00

会場：京都大学理学部6号館2階 272号室

報告：李哲揆氏（理化学研究所バイオリソースセンター）

「植物を健康にする微生物の発見」

### 第67回科学技術研究部会

日時：2018年6月30日土曜日 16:00 京都大学理学部6号館入口ピロティ前集合

会場：京都大学理学部6号館2階 272号室

報告：金穂香氏（京都大学 大学院理学研究科 化学専攻 修士2回生）

「光センサータンパク質 PYP を取り巻くシグナル伝達の仕組み」

### 第68回科学技術研究部会

日時：2018年10月20日（土）16:00～

会場：ナレッジオフィス VisLab Osaka

報告：鄭仁大氏（近畿大学理工学部講師）

「結び目の数学」

## ◎合同研究会

### 第92回人文社会研究部会、第67回科学技術部会 合同研究会

日時：2018年12月15日（土）14:00～

会場：大阪教育大学大天王寺キャンパス 中央館4階415室

報告：文鐘聲（畿央大学）「在日コリアン高齢者の健康を阻むものは何か」

池貞姫（愛媛大学）「北朝鮮の博物館と展示品—越北画家の絵画を中心に」

## ◎その他

国際高麗学会ソウル支会創立20周年記念国際学術大会「韓国学と朝鮮学、その争点とコリア学の模索」への日本支部会員の参加

日時：2018年7月14日 10:00～20:30

場所：建国大学

## ◎理事会

理事改選

- 選挙公示日：2018年3月28日（水）
- 投票期間：2018年3月28日（木）～4月15日（日）
- 開票日：2016年4月19日（木）
- 選挙管理委員会委員長：伊地知紀子
- 開票場所：国際高麗学会事務室
- 当選者（50音順）
  - 伊地知紀子 氏
  - 任 正 焯 氏
  - 総谷 智雄 氏
  - 高 正 子 氏
  - 高 龍 秀 氏
  - 徐 正 根 氏
  - 宋 南 先 氏
  - 滝沢 秀樹 氏
  - 蔡 德 七 氏
  - 鄭 雅 英 氏
  - 外村 大 氏
  - 朴 一 氏
  - 裴 光 雄 氏
  - 文 京 洙 氏
  - 森 類臣 氏 以上 15 名

### 第 12 回理事会

- 日 時：2018年6月10日（日）11：30～12：30
- 場 所：大阪教育大学天王寺キャンパス中央館1階会議室
- 議 題：1. 理事会選挙報告
- 2. 新会長選出について
  - 3. 2017年度事業報告
  - 4. 2018年度事業計画
  - 5. 2017年度決算・2018年度予算
  - 6. その他

### 1. 投稿資格

国際高麗学会日本支部は、学会誌『コリアン・スタディーズ』を年1回発行する。掲載される原稿は、朝鮮半島および朝鮮民族に関するあらゆる分野の学術的な論文、研究ノート、書評論文、キルチャビ、書評である。論文、研究ノートについては、国際高麗学会日本支部会員は自由に投稿できる。投稿については、寄稿規定並びに執筆規定を熟読すること。ただし、当該年度までの会費納入を要する。投稿論文は常時受け付ける。また、編集委員会で企画する特集については、非会員にも寄稿を依頼することがある。

### 2. 投稿条件

投稿される原稿は、未発表の書き下ろし作品のみとする。同一原稿を『コリアン・スタディーズ』以外に同時に投稿することはできない。

### 3. 審査

寄稿された原稿を掲載するか否かは、別途定める査読規定に基づいて編集委員会で審査の上決定する。

### 4. 使用言語

本文は日本語のみとし、注および参考文献に限り外国語を使用できる。要旨およびキーワードは日本語および英語とする。

### 5. 枚数

原稿枚数は400字詰め原稿用紙換算で50枚以内とし、本文(タイトル、氏名含む)、注、参考文献、図表を含めたものとする。論文には、日本語要旨、英語要旨およびキーワード(日本語および英語)を付けることとする。ただし、いずれも枚数には含まない。枚数を超過した場合、審査対象としないこともあるので、下記を確認すること。

論文 50枚以内+日本語要旨(400～800字)、英語要旨(800～1000語)+キーワード(日本語および英語)

研究ノート 50枚以内

キルチャビ 20枚以内

書評 5～15枚

### 6. 投稿形式

投稿は原則として電子文書とし、マイクロソフト・ワード形式かリッチテキスト形式で作成したものを投稿規定10にある提出先のe-mailアドレスに送付すること。図表や写真は可能な限り本文中に挿入すること。マイクロソフト・ワード形式かリッチテキスト形式以外での提出については、投稿規定10にある問い合わせ先に連絡すること。必要に応じて印刷された原稿の郵送を求めることがある。

### 7. 抜き刷り

本誌は国際高麗学会日本支部会員には1部ずつ、論文、研究ノート各1本につき1部配布する。抜き刷りをご希望の場合は別途有料となるので、投稿の際に申し添えること。問い合わせについては10を参照のこと。

### 8. 校正

校正は原則として著者校正のみで、内容のみならず、投稿規定および執筆規定に則った形式に訂正することも校正作業に含まれる。審査により採用決定となった後に行われる初校段階での誤植以外の修正は原則として認めない。なお、再校は初校段階の訂正を確認するだけの作業となる。

### 9. 原稿の保管

投稿原稿の保管や取り扱いについては編集委員会が責任を負う。

## 10. 提出先および問い合わせ

投稿原稿は下記宛に提出すること。

国際高麗学会 日本支部事務局

〒530-0047 大阪市北区西天満4丁目5-5 マーキス梅田 506号

tel 06-6314-3775 fax 06-7660-7980

isksj@ams.odn.ne.jp <http://www.isks.org/>

投稿などに関する問い合わせは、上記住所の支部事務局をお願いします。

## 11. 著作権

投稿された原稿の著作権は国際高麗学会日本支部に所属するが、原著者が『コリアン・スタディーズ』に掲載された当該論文を自著作の単行本や論文集に再掲載することは妨げない。

(2014年6月30日)

## 国際高麗学会日本支部学会誌『コリアン・スタディーズ』執筆規定

2014年6月30日一部改訂

### 1. 本文

#### (1) 基本用語

- a. 原稿は日本語、横書きとする。図表や図版は原稿本文に組み込み、紙幅の制限内に含める。
- b. 朝鮮、中国に関わる人名・地名は漢字（日本の現代漢字も可）で表記し、漢字不明の場合はカタカナ表記とする。欧米由来の度量衡はカタカナ表記とする。

#### (2) 数字

- a. 数字はアラビア表記を原則とし、場合に応じて漢数詞を用いる。
- b. 年号は西暦を用い、国家・地域固有の年号を使用する際は西暦を（ ）で付記する。

#### (3) 見出し

- a. 章はアラビア数字で1、2、3…と表す。「はじめに」と「おわりに」（あるいはそれ等に該当する見出し）にも数字を振る。「はじめに」は1とする。
- b. 章以下の節は（1）、（2）、（3）の順で表す。
- c. 節以下の項はa、b、cの順で表す。

（例）第1章⇒1、第1節⇒（1）、第1項⇒a

### 2. キーワード

論文、研究ノートには日英5語以内でキーワードを付けること。キーワード間は読点ではなくコンマを入れること。

### 3. 文献引用

（1）本文や注、図表で文献を表記する際は、編著者の姓（刊行年：ページ）のみ表記し、文献の詳細は参照文献リストに表示する。朝鮮人の名は姓名とも表記する。編著者名が付いていない刊行物の場合は、発行機関名を表記する。

（例）文献全体を示す場合

鈴木 [2005]、朴統一 [2011] によれば・・・

文献の一部を示す場合

…投票率は低かったとされる [キムハヌル 2012: 11-13]。

（2）2度目以降の引用でも前掲書・前掲論文、同上書・同上論文などの用語は使用せず、上記（1）のように



表記する。

(3) 新聞・雑誌記事や社説の場合は本文・注・図表に新聞・雑誌名、発行年月日を記した上で、参考文献リストに新聞・雑誌名を入れる。

(例)

…保守言論による歪曲は深刻である [『月刊朝中東』2001年1月]。

…と指導者は発言している [『労働新聞』2012年4月16日]。

#### 4. 注

(1) 注は、本文の内容について文脈上の解説や言及をする必要がある場合に用いる。

(2) すべて文末注とし、方カッコ付アラビア数字で表示する。

(例) 1)、2)、3)・・・

#### 5. 図表

図表のタイトルは、図の場合は図の下に、表の場合は表の上に付ける。

#### 6. 参考文献

(1) 本文、注記、図表で用いたすべての文献を「参考文献」として本文の最後に一括して表示する。参考文献とは、本文中または注において引用した文献を指す。

(2) 文献リストは言語ごとに分け、日本語文献は著者名の50音順、韓国・朝鮮語文献は著者名のカナダラ順などに並べる。

(3) 参考文献については、著者名・(刊行年)・書名・号数(発行年月日を入れてもよい)・発行所・頁等を示す。筆者名のある新聞・雑誌記事は雑誌論文と同様に表記し、発行年月日も記入する。

(4) 英文文献の場合、書名はイタリックで表記する。論文名は単行本所収か雑誌所収かに関わらず一律クォーテーション・マークで括る。

(例)

単行本の場合

・朴一(2005)『朝鮮半島を見る眼－「親日と反日」「親米と反米」の構図』藤原書店、pp.123-125

・이광우(2004)『신경과학』법문사, pp.153.

・Kim, L. (1997). *Imitation to Innovation: The Dynamics of Korea's Technological Learning*. Boston: Harvard Business School Press.

論文の場合

・文京洙(2005)「戦後60年と在日朝鮮人“国民”の呪縛を超えて」『思想』No.980、岩波書店、pp.8-9

・김신일(1991)「교육자치의 당위성과 현실」『교육학연구』Vol21, 교육출판, pp. 11-18.

・Min, Pyong Gap. (2001). “Koreans in New York: An ‘Institutionally Complete’ Community.” *New Immigrants in New York*, edited by Nancy Foner, New York: Columbia University Press, pp.173-200.

・Koh, Y.S. (2008). “Financial and Corporate Reform in Korea: Survival Strategies of the Korean “Chaebols””, *Asian Studies*, 54 (2), pp.71-88.

## 編集後記

『コリアン・スタディーズ』第7号をお届けいたします。

朝露首脳会談のニュースをラジオで聴きながら今号の論考を再読し、朝鮮半島における秩序変革の行方に思いをめぐらせております（2019年4月現在）。この変革の過程において、日本は完全に「蚊帳の外」におかれているにもかかわらず、日本政府関係者は、「拉致問題の解決なくして国交正常化なし」などと、「妄言」を繰り返すのみで、無能さと不誠実さを露呈しています。「『拉致問題』を解きほぐすためには、まず国交正常化を」という「正論」がなぜ黙殺されているのか、本当に不可解です。

さて、今号掲載の研究ノート2編は、いずれも深い考察にもとづいた力作です。そして、「キルチャビ」の論考4編も読み応え十分で、私も大いに勉強させていただきました。

また、学術大会報告を読みながら、昨年6月に聴かせていただいた、すばらしい歌声と演奏を思い出しております。

次号（8号）も今号と同様に、6月初旬に論文募集告知、7月末に論文投稿申請締切、9月末に論文投稿締切という流れを予定しています。多くの投稿をお待ちしております。  
(総谷智雄)

『コリアン・スタディーズ』編集委員  
文京洙  
高正子  
朴一  
高龍秀  
鄭雅英  
蔡徳七  
裴光雄  
伊地知紀子  
鄭栄鎮  
森類臣  
総谷智雄（編集委員長）

# コリアン・スタディーズ

## 第7号

Korean Studies No.7

---

頒価 1,000 円

2019年6月1日 発行

編集・発行団体 国際高麗学会日本支部

〒530-0047

大阪市北区西天満4丁目5-5

マーキス梅田506号

TEL 06-6314-3775

FAX 06-7660-7980

E-mail [isksj@ams.odn.ne.jp](mailto:isksj@ams.odn.ne.jp)

発行者 国際高麗学会日本支部会長 鄭雅英

編集代表者 総谷智雄

装丁 金文男

制作 株式会社 田中プリント

Korean Studies  
Vol.7 2019

Article

Future outlook of the transition of order in the Korean Peninsula  
— from an era of politics to an era of economy ..... MIMURA Mitsuhiro

Notes on Research

On the Particle “만” Attached to Adverbial Consecutive Endings  
— In a Study on V1- (아·야) and V2-type Verbs — ..... Park Eunjoo

The Gwangju Uprising and Victims' Memory: Transformation from Individual Memory  
to Collective Memory Through the "Minjung" Concept ..... SATO Yukie

Research paper

The research paper for the 22nd symposium of the International Society for Korean Studies  
in Japan ..... Koh Jeong Ja

Kilchabi (Compass)

On Postage stamps of D.P.R.K ..... IM Jonghyok

Impressions of the Film “Crossing the Hills of Arirang: the Current Music of Koreans Residing  
in Japan” ..... AJIMURA Kosuke

Impressions of the Film “Crossing the Hills of Arirang: the Current Music of Koreans Residing  
in Japan” ..... MITSUKAWA Makoto

Asbestos Victim and Korean Laborer in Sennan City, Osaka Prefecture ..... KANG Kun-Young

Book Reviews

Modification and Fluctuation of Zainichi Korean identity by CHUNG Youngjin ..... IJICHI Noriko

55 Chapters to Understand Jeju Island by YANG Sungjung, KIM Yangsik, IJICHI Noriko, et al.  
..... CHUNG Youngjin

The museum of North Korea by Jang Gyeong Hee ..... Koh Jeong Ja

The Second Korean Diaspora: Domestic Migration and Community Formation  
of Korean-Chinese by NAN Yuqiong ..... IMASATO Hajime

Published by the Japan Branch of International Society for Korean Studies  
4-5-506, Nishitenma, Kita-ku, Osaka, Japan